

# 1

# 株式会社フジクラ

## 各社の考え方

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● GHGプロトコルScope3はグローバルデファクトスタンダードとなりつつある。</li><li>● サプライチェーン排出量を含むこの基準での情報公開はCDPで求められ始めている。</li></ul>
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● CDPへの回答やCSR報告書、ホームページを通じてバリューチェーンでの温室効果ガス排出量の情報公開を行う。</li></ul>
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● 環境配慮設計での温暖化対策についてのトレンドを把握するための定量的なひとつの指標とすることが期待できる。</li></ul>
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 社内関連部署よりデータを収集して品質環境管理部で算定を行う。</li></ul>

## 各社の考え方

<p>□ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 環境配慮設計での製品環境アセスメントで重要な評価軸として省資源、省エネ等を組み込んでおり、調達品、製品を通じたCO2削減の取組を推進している。</li><li>● サプライチェーンマネジメントの強化が求められてきており、お客様、調達先様とのコラボレーションによる温暖化対策を図る。</li></ul>
<p>□ サプライチェーン 排出量算定の課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 調達品のCO2排出量原単位の精度向上</li><li>● 製品使用時の環境貢献シナリオ設定など</li></ul>
<p>□ これからサプ ライチェーン排 出量を算定する 方へ</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>● まずは簡易計算でも自社のScope3全体像を把握すると良い。</li></ul>

## 3

## 株式会社フジクラ

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・部品の調達量	● 3EID産業関連表ベース原単位
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達金額	● 3EID産業関連表ベース原単位
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 電気・燃料等のエネルギー使用量	● CFP基本DB原単位
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 荷主責任の製品物流量及び調達物流量	● 電線PCR+CFP基本DB原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量	● SC排出原単位DB(Ver.2.0)
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額	● SC排出原単位DB(Ver.2.0)
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 通勤費支給額	● SC排出原単位DB(Ver.2.0)
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● Scope1,2に含まれるため算定外とした。	●
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 納入先の顧客による物流	● 電線PCR+ CFP基本DB原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 半製品の販売量	● CFP基本DB原単位
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 使用時の直接排出はなく算定外とした。	●
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 製品販売量	● 電線PCR+ CFP基本DB原単位
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● 該当なし	●
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	●
カテゴリ15「投資」	● 該当なし	●

●SC排出原単位DB(Ver.2.0) … サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース  
●電線PCR … 「LCAデータベースの整理」の商品種別算定基準(PCR) 2010年3月 JECTEC

## 2012年度Scope1,2,3CO2排出量の内訳

□ 算定結果

